

「学び」の一步は生涯つづく

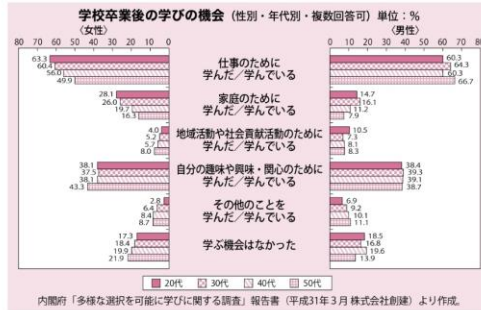
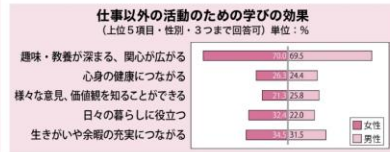
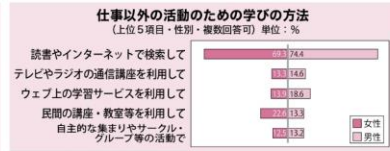
～ 多様な学びでイキイキ輝く～

人生100年時代を見据え、「学び」を通じて、男性も女性も、一人ひとりが、多様なライフキャリアの形成と選択ができる社会の実現に向けて取組が進められています。青森県男女共同参画センターでは、仕事のための学びに限らず、家庭生活や地域生活を充実させるための多様な学びの講座、相談対応、情報発信を行っています。学びを通じて、今から一步進んで多様な選択を可能にするヒントを探ります。

学ぶ目的・方法・効果

平成30年度に内閣府が公表した「多様な選択を可能にする学びに関する調査」によると、学校卒業後に学ぶ機会があったと回答した人は調査対象全体の8割を超え、仕事のためだけでなく、家庭生活、地域活動、社会貢献、趣味など、学ぶきっかけは十人十色です。具体的には、「読書やインターネットでの検索」で学ぶ割合が男女ともに圧倒的に高く、続いて、女性は「民間の講座・教室等」、男性は「ウェブ上の学習サービス」を利用して学んでいる人が多くなっています。効果については、「趣味・教養が深まる、関心が広がる」、「生きがいや余暇の充実」に続いて、女性は「日々の暮らしに役立つ」、男性は「様々な意見・価値観を知ることができると感じる人が多くなっています」。

どの世代にとっても、従来の講座や教室に留まらず、現在はインターネットの普及もあり、学びの入口は一人ひとりの目の前に広がっていると言っても過言ではありません。そして、その学びとは、資格取得をめざすもの、仕事や生活に役立つ知識や技術、人生を豊かにする活動など、多種多様です。変化し続ける社会において、学び続けることは、生涯を通じた活躍や新しい出会いにもつながっていくと考えられます。さあ、あなたも自分なりの一步を始めてみませんか。



内閣府「多様な選択を可能にする学びに関する調査」報告書(平成31年3月株式会社創達)より作成。

「1」人生の先輩に学ぶ 「イキイキ輝く」勉強法

アピオあおもり秋まつりにおいて、若宮正子さん(デジタルクリエイター・84歳)と桑田ミサ子さん(笹餅製造者・92歳)による対談「人生100年時代をイキイキ輝く」コンピュター「おばあちゃん」vs「ソウルフードおばあちゃん」を開催しました。



▲(左から)若宮正子さん、桑田ミサオさん。お二人に共通するキーワードを基に、それぞれの経験や生き方などを幅広く語っていただきました。

「元気の秘訣」

若宮「毎日やらなければならぬことをやることと、面白いことを見つけたらあつちに行ったり、こちに行ったりしている。どこかに行くにしても交通経路を考えると、自分で切符を買うなどすべて自分でこなすには、毎日頭を使わないと生きていけない。脳みそをガンガン使って、頭の回転は前よりも速くなったと思う。」

「学びの好奇心」

桑田「子どもの頃は体が弱く、何日も学校を休むことがあり、勉強についていけなかった。母からはわからないこととはわかるようになるまで何でも聞くように言われ、どんなことでも誰にでも聞いてきた。わからないことは何でも調べ、何でも知りたい!という気持ちになる。笹餅づくりも試行錯誤でやってきた。探求心や好奇心が次へと活かす秘訣だ。」

「創意工夫と遊び心」

若宮「定年退職後に少々高いおもちゃを買う感覚でパソコンを買い、挑戦した。器用に早くやる必要もなく、楽しんで使ってみることに。今はスマホも出てきて、どんどん面白くなってきた。どんなことでも面白く、たくさん見つけてくるのが好きで、アプリやブログランキングなども楽しみながら作って、使ってくださいる方にも楽しんでもらえればと思う。クリエイティブな仕事に必要なこと、人間にしかできないことをやり続けたい。」

「生涯現役」

桑田「小さい頃から母に「10本の指は、黄金(こがね)の山」と言われて育った。10本の指さえ動かしていれば、お金に不自由することはないという教えだった。学校は休みがちだったが、母から雑物を習い、山菜採りや畑仕事も一つ一つ丁寧を習い、身につけて、それを今も続けている。若宮「人生100年時代には、学生時代、現役時代、退職後の時代と分けて考えなくてもいいと思う。学校で学んで、資格を取って、それを活かしてどこかに勤めたとして、何年か経ったらそこを辞めて、今度は違う資格を取ろうとか、海外で言語を覚えて、ゆつくり旅をするとか人生でいろいろながあっていいと思う。」

対談では、何事も好奇心を持って挑戦することの大切さが語られ、お二人から元氣とパワーとやる気をいただきました。

「2」子育て中でも仕事に活動にプラスα。今いる場所で学ぶ!

あおもりウイメンズアカデミー 地域女性リーダーコース
地域のさまざまな課題を男女共同参画の視点で解決するため、政策・方針決定の場に参画し、活躍できる女性の人材育成事業を外ヶ浜町と大間町で開催しました。

内容は、講義、ワークショップ、課題把握・分析、解決に向けた取組の企画・立案など全6回。子育て中の方も参加しやすいように無料の託児も設けました。
地域活動に取り組む方、子育て真っ最中の方、仕事をしながら何か学びたい、仲間をつくりたい、新しいことを始めたいと思う方々などが集い、学び合いました。



▲講座「町長とかだ(語)ろう」(外ヶ浜町) 外ヶ浜町、大間町の町長と受講生が地域課題の解決に向けて、質問や意見交換をしました。



▲講座「地域の課題解決策を考える」(大間町) 身近なテーマで地域活性化策について意見を話し合い、発表を行いました。

受講生の感想

(「講座アンケート」及び「東青地域ネットワーク学習会」より)

- ◆印象に残ったこと
 - ・職業だけでなく社会的活動もキャリアになると聞いて、自信につながった。
 - ・さまざまな問題意識があることに気づかされた。行政がすること、住民レベルでできることを整理して政策提言したい。
- ◆女性にとっての学びの必要性
 - ・単なる友だちではなく、目的を達成するための仲間ができてうれしい。活動を通して自分を知るきっかけにもなる。次は自分たちが学びの場をつくるなど、次のチャンスをつくっていくことも必要だと思う。
 - ・地域のことを真剣に考え、行動に移していく女性たちに出会えた。一人で一歩踏み出すのは難しいが、仲間と一緒に取り組んでいきたい。
 - ・郡内の他の地域の女性たちとの出会いは刺激になった。女性がリーダーになるには、一歩先を見据えて、自分のためにも、地域のためにも学びは必要だと思う。
- ◆学んだことを地域で、自分自身の生き方でどう活かしていくか
 - ・普段は一人で仕事をしているため、講座で仲間と取り組む楽しさに気づいた。いつまでも学び続けることが大事だと思う。自分を知って、必要な資格を取るなど、どうしたいかを自分で決めて生きていきたい。
 - ・仲間を大切に、ワクワクする地域に向かって、私だからできる、私にしかできないことを、真摯に取り組んでいきたい。
 - ・地域内でのつながりができて、情報共有もできるようになった。プロジェクトの実現に向けて、目標が見えてきた。

大切なのは「学び、気づき、知る」こと

このように、自分の住む地域で、学びや気づきを得ること、それを共感できる仲間と出会うことは、自分をイキイキと輝かせるきっかけとなるでしょう。
実際に、今年度の修了生には、地域で起業した方や県の審議会委員に登用された方がいます。また、地域活性化のプロジェクトを始動したグループもあり、今後のさらなる活躍が期待されます。



メッセージ

「出会う・つながる・動き出す」
人生100年は時代とともに常に学び！

田中 弘子 (たなか ひろこ) さん

NPO法人青森県男女共同参画研究所 理事長

1947年弘前市生まれ。弘前市役所在職時、初の女性管理職として、文化会館長、中央公民館長、市民会館長を歴任。セミナー・ハンサムウーマン、男女共同参画ネットワーク・津軽広域の設立のほか多方面にわたるNPO法人、社会福祉法人等の団体設立、運営に携わる。2019年、あおもりウィメンズアカデミー地域女性リーダーコースのトータルコーディネーターを務めた。



講座のトータルコーディネーターとして

受講生の皆さんの地域に対するパッション(情熱)をどのように引き出すかということに、目的を明確にして「ミッション」(使命)を整理することを心がけて、講座を進めていきます。皆さんの学習意欲が高くなり、回を重ねるにつれて、これは実際に地域の活動に結び付けていくのでぜひ期待が高まってきます。このような学びの場での出会いを、ネットワークとまではいなくても、次の動きにつなげることを意識して取り組みました。講座の最後に発表したプロジェクトが実現に向けて動き出しているのも嬉しいですね。

生涯学習で得た気づき
大切にしていくこと

弘前市職員時代に生涯学習に関わり、「知恵の壺」に自分が学んだものを入れて、それを夢や希望、アイデアやエネルギーに変えながら、自分の力を伸ばし、まわりにそのエネルギーのシャワーをかけられるということになり、生涯学習は一生やるものじゃないかと思うようになりました。

特に女性には学ばば意識が変わると思います。公民館で女性学を学んだ専業主婦が、夫がリストラに遭い、退職を余儀なくされたときに、「私にも働けるチャンスが来た！」と動き出したという事例もあります。女性学を学んでいたから、夫を責めることなく、自分のチャンスととらえて、やはり学ぶことで素晴らしいなあと思います。いろいろなことを学ぶと自分のエネルギーになって、自分だけで持っていないで、それをシャワーにしてあ

げる気持ちになるから、生涯学習は素晴らしいなあ、今更ながら思います。

人生100年時代の学び

情報交換、交流のネットワーク「セミナー・ハンサムウーマン」を始めるとき、先輩女性から「交流するだけのハンサムウーマンではなく、頭にセミナーと付けて、学びを入れましょう」と言われ、何をやる時には「学び」を必ず取り入れることにしました。在職中も仲間と海外視察に行き、学んだことを地元紙に連載するなど、ブラッシュアップも欠かせません。

学びの機会が普段の生活にもあふれていますが、常に問題意識を持っていれば、それが学びにつながると思います。例えば子ども世代のテレビを見ながら、気づいた問題について話や声かけと恥学びになるし、仕事に役立つ学びを始めて、子どもが大学に行き、自分の時間が持てるようになった時、放送大学や通信の学びを始めたり、親の介護が始まったら介護のことを学ぶなど、時代とともに、人生100年は常に学びでしようね。

学びを通じた多様な生き方の
選択に向けて

常に問題意識と当事者意識をもつことが大切です。それと、人生100年を生きていくには、ストレッチをためずに戦略方法を考え、うまく切り替えることも必要です。できる限り、出会うこと、つながることを大切にしたい、楽しく動き出しましょう。

取材を通して..

生きている限り「楽しく、学ぶ」機会はいつまでも。私は以前あおもりウィメンズアカデミーを受講したのきっかけに、自分を見つめ直し、これからの生き方を考え、独立・起業をしました。仕事でもボランティアでも、心から「楽しい！」と思えることが何よりの活力であり、学びにつながります。そして、その学びと経験をイキイキと発揮できる場が増えていくといいですね。(秋葉 美早恵)

今年度、あおもりウィメンズアカデミー地域女性リーダーコースを大間町で受講しました。自分が女性としてぶつかっている壁は、社会的な課題だと気づきました。また、仲間と話し合う中で、地域をよりよくするために「廃校等を活用した多世代交流の拠点をつくる」との夢のつぼみが生まれ、また、花を咲かせ、実がなるよう、仲間とともに行動していきたいです。(大畑 彩美)

男女とも社会の様々な場面で活躍していくためには学びが重要です。青森県男女共同参画センターでは、学びの充実とともに、皆さんが学びを活かす、自らの選択に基づき、自信とやりがいをもって多様な役割を果たし活躍できるように、応援しています。

